DG12
9

0030629000

0030629-000

DG12－9

戦時財政五ケ年（自昭和１３年度至昭和１７年度）計画第一号案

日満財政経済研究会

１９３８

AEA

極秘

47

昭和十三年一月

戰時財政五ヶ年（自昭十三年度至昭十七年度）計畫第一號案

DG12
9

國防部
43.11.12
圖書館藏書

775404

戰時戰政五ヶ年計畫第一號古案

目次

第一　要旨　一
第二　戰爭ノ假定　二
第三　戰時一般會計　三
(1)　歲出歲入概說
(2)　歲出ノ解說
(1)　國防費ノ計上
(2)　行政費ノ抑制
(3)　生產力擴充ノ指導
(4)　銃後費ノ概算
(5)　公債費ノ見込
第四　戰費特別會計　六
第五　戰時綜合會計　八
(1)　歲出歲入概說

(ロ) 理論的ノ考察
(ハ) 根本方針ノ確立
第六 租税對策
(イ) 租税改革ニ對スル態度
(ロ) 主ナル増新税
(ハ) 関聯的諸工作
第七 公債對策
(イ) 公債ノ発行額
(ロ) 公債政策ノ樹立
(ハ) 戦時公債ノ償還計畫
第八 物價騰貴トノ関係
第九 所要戦費ト物資要ノ関係
(イ) 戦費ノ内訳
(ロ) 十三年度開戦ノ場合ニ於ケル物資需給ノ関係
第十 海外支拂能力推定
(イ) 支拂能力推定ノ概要
(ロ) 推定ノ内訳説明

戦時財政五ヶ年計画第一號案

第一 要旨

開戦ノ已ムベカラザルヲ察知セバ政府ハ事ノ緩急ニ從ヒ機ヲ逸セズ予メ所要ノ戦費ヲ調達シ得ベキ充分ナル態勢ニ在ルコトヲ要ス而シテ戦争期間中ハ帝國ノ財政ヲシテ初期緊急戦費ノ迅速圓滑ナル調達ヲ行ハシムルト共ニ戦争持久ニ陥リ長期對戰ノ場合ニ於テモ強靭不動克ク戦争目的ノ達成ヲ期シ得ベキガ如ク之ヲ指導ス此ノ見地ニ於テ對AB戦争ノ成否ハ一ニ懸ツテ戦時財政計画ノ樹立ト此ノ計画ニ基ク國民経済ノ指導如何ニ在リトナスモ敢テ過言ナラズ。

然レドモ雖ツテ對AB戦争ノ開戦時期ノ如キ事余リニ重大ニ過ギ何人ト雖モ豫メ之ヲ測定スルコト極メテ困難ニシテ戦時財政計画ノ立案隨ツテ容易ナラザルモノナリト雖モ對AB戦ニ對シテハ常ニ待機的体制ニ在ルコトヲ要スルハ寧ロ我ガ國策上ノ決定的要求ト認ムベキカ故ニ此ノ見地ニ於テ本案ハ戦費ヲ見込ミタル戦時線

合財政五ヶ年計画ノ外更ニ進ンデ戰費其他ノ特別費ヲ見込マザル基本財政ニ就テモ十分ノ計画性ヲ顯揚スルニ努メ之ニ基イテ歳入計画ノ根幹ヲ示スコトトシ併セテ國民ヲシテ常ニ戰爭ニ對スル待機的財政認識ヲ深カラシムベキモノトス

第二、對B戰爭ノ仮定

大陸政策完成ノ爲ニハ將來ノ對B戰爭ヲ想定セザルベカラズ。對B戰爭ノ成否ハ一ニ懸ツテ合理的戰時財政計画ノ樹立トコノ計画ニ基ク國家總動員ノ指導如何ニ在リ。依テ茲ニ戰時財政五ヶ年計画第一歸案及第二歸案ヲ作成シ以テ綜合的戰爭經濟政策樹立ノ基礎タラシメントス。

仍ケ本計画案（第一歸案）ニ於テハ現下ノ支那事變ニ引續キ昭和十三年度後半期ヨリ新B戰勃発シ十六年度前半期マデ三ヶ年間對支B戰アルモノト仮定ス。而シテ十六年度後半期ヲ復員期間トナシ、十七年度ヲ戰後整理期間ト仮定シテ戰時財政五ヶ年計画案（自昭和十三年度至昭和十七年度）ヲ作成セリ。

第三、戰時一般會計

(イ) 歳出歳入概説

歳出計畫ハ直接戰費以外ノ全經費ヲ包含シ左ノ如シ

		百分比
軍事費	四一億円	一八%
行政費（就後費ヲ含ム）	七九億円	三五
公債費	一〇七億円	四七
計	二二七億円	一〇〇

歳入計畫ハ左ノ方法ニ依ル

稅制改革ハ戰時財政ナルニ鑑ミ暫定的改革案ニ止ム

租稅收入並ニ稅外收入ハ一般會計歳出ヲ支辨スルヲ以テ限度トナス

右財源不足額ハ悉ク公債財源ヲ以テ調達ス

		百分比
租稅收入	一二八億円	五八%
基本額	六三億円	
增新稅	二三億円	
自然增收	四二億円	
稅外收入	六〇億円	二六

基本額	三七億円	
値上並賦入増	九億円	
自然増収	一四億円	
公債金収入	二九億円	一六
計	二二七億円	一〇〇

(ロ)、歳出ノ解説

(1) 國防費ノ計上

一般軍事費ハ、五ヶ間總額百二十七億圓ヲ想定スベク、昭和十二年度十四億圓ニ比シ年平均十一億三千萬圓、五ヶ年間通算五十七億圓増加ノ苦ナルガ會計經理上、一般軍事費ノ全額若クハ其ノ一部ヲ戰費會計中ニ繰入セシムルヲ以テ、実際計上ノ数字ハ前記四十一億円ニ過ギザルコトヽナリタルモノナリ。

昭和十三年度	一八億円	對前年比較	四億円増
〃 十四年度	二九億円	〃	一一億円〃
〃 十五年度	三二億円	〃	三億円〃
〃 十六年度	二四億円	〃	八億円減
〃 十七年度	二四億円	〃	—
計	一二七億円	(五ヶ年間)	五七億円増

(2) 行政費ノ抑制

現行年額十億円ヲ基準トスル建前ニ依ル、但必要已ムヲ得ザル新規計上ハ素ヨリ之ヲ認ムベシトナスモ、戰時中ハ他方極度ノ節約ヲ行フヲ以テ差引大体トンヽト見ル。唯戰後ノ時局匡救費トシテハ、前記銃後費ノ外相当額ノ計上ヲ必要トスベシ。

(3)、生産力拡充ノ指導

生産力拡充ノ必要極メテ緊切ナルモノアルニ鑑ミ、戰爭期間中ト雖モ別途軍需産業拡充五ヶ年計畫案ニ基キ努メテ産業ノ拡充ヲ促シ、政府亦之ヲ助成スルノ方針ヲ立テ、少クトモ本計畫期間中ニ於テ總額十億円以上ノ財政支出ヲ行フ。

(4)、 戦後費（恩賞費、扶助費、恩給費其他）ノ概算

支那事変期間中ノモノヲ年額一億五千萬円ト見、又對AB戦期間中ノモノヲ年額四億五千萬円ト見ル建前ニ依リ、事変及戦争ノ継続スベキ期間ニ依ツテ適当ニ配分セシメ、五ヶ年間總額十六億五千萬円ヲ支出セシム。

但シ右ノ内年額五千万円宛ハ経常的ノ負担ト看做シ残額十四億円ヲ以テ臨時特別費トシテ戦費ニ準ゼシメ戦費ト全ク公債戦債ニ之ヲ求ム。

(5)、 公債費ノ見込

一般會計ニ於ケル公債ノ増発ハ四十億円ニ過ギザルモ他方特別会計所属ノ分ヲ併セ本計畫五ヶ年間ニ於ケル公債増発七百六十四億円ニ上リ公債利子ノ支拂ハ総額百億円トナル見込ナリ。

但公債ノ発行條件ハ之ヲ左ノ如ク假設ス。

発行價格	九八円五〇銭（据置）	
利率第一年		三・五％（現行率）
〃 第二年		四・〇％（五厘上ゲ）
〃 第三年以降		四・五％（五厘上ゲ）

第四、 戦費特別會計

戦費ハ對A戦費（昭和十三年度前半期）及對AB戦費（十三年度後半期ヨリ十六年度ノ前半期ニ至ル戦費及復員費）合計七百三十九億圓ヨリ成ル。

昭和十三年度	一二四億圓	（支那事変費二〇億圓及一般軍事費ノ一部一〇億圓ヲ含ム）
〃 十四年度	二一六億圓	（一般軍事費ノ全額ヲ含ム）
〃 十五年度	二四三億圓	（同 右）
〃 十六年度	一五一億圓	（復員費一五億圓及一般軍事費ノ一部一五億圓ヲ含ム）
〃 十七年度	五億圓	（復員費ノ一部）
計	七三九億圓	

但、右内事変費及復員費及一般軍事費ノ一部ヲ除外シタル対AB戦費ハ六百七十四億圓トナル

歳入計畫ハ左ノ方法ニ依ル

租税戦源ハ負担増並ニ戦時臨時税ノ創設ニ求ム

右戦源ノ不足額ハ悉ク公債戦源ヲ以テ調達ス

戦時臨時税	二五億圓	百分比	三％
公債金	七一四億圓	〃	九七〃
計	七三九億圓	〃	一〇〇〃

第五　戰時綜合会計

(イ)　歳出歳入概説

假ニ前記ノ戰時一般会計及戰費特別會計ヲ綜合シ戰費ノ全額ヲ公債戰源ニ求ムト假定スレバ戰源關係ハ左ノ如キ結果トナルベシ

戰費ノ全額ヲ公債戰源ニ求ム

戰費以外ノ經費ハ租稅及稅外收入ニ求ム但就後費ノ内戰時中特別計上分　十四億圓ハ準戰費トシテ之ヲ公債戰源ニ依ラシム

歳出

		百分比
戰費	七三九億圓	七六％
國防費	四一億圓	五
行政費	七九億圓	八
公債費	一〇七億圓	一一
計	九六六億圓	一〇〇

歳入

租稅收入	一五三億圓
稅外收入	六〇億圓
戰費公債	七三九億圓
赤字公債	一四億圓
計	九六六億圓

(ロ)　理論的ノ考察

本計画五ヶ年間ヲ一期トシテ戰費及關聯費ヲ特別費ト看做シ之ト然ラザルモノトヲ区分シ前者即チ戰費關係ノ戰政ト後者即チ基本戰政トノ両面ニ分テ各ニ其ノ戰源ニ就テモ適宜理論的ノ配分ヲ試ミレバ左ノ如シ。

戰時基本戰政ノ構成

歳出

		五ヶ年間ニ於ケル増加
國防費	一二七億圓	五六億圓
行政費	六四億圓	〃 一二億圓
公債費	二七億圓	〃 六億圓
総計	二一八億圓	〃 七四億圓

歳入

租稅收入	一一六億圓	〃 五一億圓

税外收入	六〇億圓	
小計	一七六億圓	〃
公債收入	四二億圓	
總計	二一八億圓	

五ヶ年間歳出ノ增加七十四億圓、全ジク税外收入ノ增加見込二十三億圓、差引五十一億圓ハ租税ノ增收ニ依ル。

戰費特別會計ノ構成

歳出		
戰費	七三九億圓	
鉄道費	一四億圓	（一般國防費其他ヲ含ム）
公債費	八一億圓	（鉄道費一六、五億圓ノ内）
總計	八三四億圓	

歳入		
租税收入	三七億圓	（戰時利得税其他）
一般國防費引當金戻入	八六億圓	（基本戰政ニ於テ計上）
計	一二三億圓	
公債收入	七一一億圓	
總計	八三四億圓	

二三億圓

七四億圓

公債收入以外ノ実收百二十三億圓（但國防費引當戻入）

仍チ戰時公債費八十一億圓ヲ賄ヒ差引四十二億圓ノ餘剰アリ恰モ前段其本戰政ノ赤字四十二億圓ニ該當ス。

（八）

根本方針ノ確立

戰費及関聯費ヲ除外シタル基本戰政ノ見地ニ於テハ、前述五ヶ年間ニ於ケル國費ノ增嵩七十四億圓ニ対シ、税外收入ノ增加見込二十三億圓ト相ヘ、差引五十一億圓ヲ租税ノ增收ニ求メシメ以テ待機中戰政ノ基礎ヲ確立ス。

仍ヲ五ヶ年間ニ於ケル自然增收二十八億圓ナラバ、差引二十三億圓ノ不足ハ是ト即チ增税不可避ノ限界ニシテ、開戰ニ至ラザル場合ト雖モ、猶ホ基本戰政ノ建前上當然要求セラルベキ筈ノモノナルハ注目スベキ點ナリ。

而シテ本基本戰政ニ於テ、公債戰源ニ依ルベキモノハ總額四

十二億圓、即チ平均年八億圓ノ割ニシテ、恰モ基準年度並ニ當リ一見赤字戦政ノ延長カノ如キ観アルモ、実ハ本計畫期間中ニ於ケル國防費ノ膨脹五十七億圓ヲ算シ、右ノ赤字公債ヲ超過スルコト十五億圓ニ上ル事情ヲ考慮セバ、軍事費平均年額十六億圓トシテ現在ニ比シ二億圓増ト假定スルモ、本計畫期間中ハ全然赤字ナキ戦政ニ帰着スベキ意味アルナリ、之待機中戦政ノ彈力性ヲ保持センガ爲メニ外ナラズ。

次ニ戦費ヲ主トスル特別費会計ノ見地ニ於テハ、五ヶ年間歳計総額八百三十四億圓ノ内、公債收入以外ノ実收ヲ總額百二十三億圓タラシムルヴ如キ收入ノ建前ヲ採リ、之ヲ以テ戦時公債費八十一億圓ヲ賄ヒ、差引余剰金四十二億圓ハ、前段基本戦政ニ於ケル赤字四十二億圓全額ノ填補ニ見合ハシムルモノトス。

之ヲ要スルニ、戦時戦政綜合五ヶ年計畫トシテハ、前掲戦費トシテノ計上額七百三十九億圓及特別歳費十四億圓、計七百五十三億圓ニ対シ其ノ全額ヲ公債戦源ニ依ラシムル建前トスルモ、他方右特別費以外ノ國費全般ニ對シテハ、租税及税外收入ヲ以テ支辨セシムルト共ニ、戦時公債費ノ調達モ亦同様ニ一切租税及税外收入ニ依ラシムルコトトシ、以テ戦政ノ基礎ヲ確立セントスルニ在ルナリ。

更ニ見方ヲカヘ本期間中ニ於ケル公債利子ノ増嵩ヲ以テ租税收入増徴ノ限度タラシムヘシトナストモ本案租税ノ増收八十八億四（石油專賣益二億四ヲ見込ム）ニシテ公債費ノ増嵩八十七億四ヲ超過スルコト一億四ニ過ギス。

第五　租税對策

(イ)　税制改革ニ對スル態度

現下非常時局ニ在ツテ増税ノ已ムベカラザルハ何人ト雖モ苟モ異論アルマジキ所ナルノミナラズ他方開戦ノ有無ニ隨ツテ夫々國民所得乃至ハ課税所得増加ノ趨勢ヲ勘案シテ國民擔税力ノ前途ヲ考察スルモ前掲程度ノ増税若クハ増收ナラバ財界ニ對スル不當ノ摩擦モ之ヲ廻避スルコトヲ得ベキ見込アリ

抑モ我が國現行ノ税制ニ対シテハ根本的改革ヲ加フルノ必要ヲ認ムルモノナレトモ何分戦争ヲ前提トスル本案ニ於テハ不當ノ摩擦ヲ回避スル爲メ特ニ戦時財政トシテ税制ノ暫定的改革ニ止ムルヲ可トス

然レドモ國民生活ノ安定ト國民負担ノ均衡トニ留意シ以テ人的資源ノ擴充ヲ計ルト共ニ他方物的資源ノ充実ニ就テモ意ヲ用ヒ特ニ生産力ノ擴充ヲ促ス爲メ事業會社ニ對スル過当ノ重課ハ之ヲ見合セ産業資本ノ吸引ヲ計ルヲ以テ得策トナス

但戦時特別利得ハ適宜之ヲ還元セシムベキコト勿論ナルト共ニ個人及個人會社ニ對シテハ啻ニ國民總動員ノ徹底ノミニ止

マラズ且ツハ悪性インフレ防止ノ一助トシテモ其ノ担税力ノ限度ニ於テ増税断行ノ必要アリトナスベシ而シテ従来個人課税ノ方面ニ脱税特ニ顕著ナル事実アルニ鑑ミレバ此際脱税ノ防止ニ就テモ政府ハ須ラク断乎タル處置ヲ講ズベキモノアラン

(ロ) 主ナル増新税

所得税ノ増税

第三年目　平均六割増税（第二種所得税ノ増徴ニ付テハ他方公債利廻リトノ関係ヲ充分考慮スルコト）

仝時ニ賀屋増税ニヨル所得特別税ヲ廃止スルヲ以テ実質上平均三割三分強ノ増税ニ当ル

但自然増収率平時一割乃至一割五分戦時ニ割五分ト仮定

営業収益税ノ増税

第三年目　平均二割増税

但自然増収率平時一割戦時一割五分ト假定

資本利子税ノ増税

第三年目　二割増税

但自然増収率平時一割戦時ニ割ト假定

相續税ノ増徴

第三年目　十割増税

増税後毎年二割増此アルモノト見ル

但自然増収率一割ト仮定

売上税ノ新設

第二年目　新設税率千分ノ二

仝時ニ賀屋増税ニヨル物品特別税ヲ廃止ノコト

但自然増収率平時二割戦時五割ト仮定

奢侈品税、遊興支出税ノ新設

何レモ第二年目新設

但奢侈品税ハ次年度十割増税（戦時）

（以上ハ開戦ニ至ラザル場合ト雖モ猶増新税ヲ実施スベキ税目ナリ）

賀屋増税

初年度増税三億一百万円

但前年中実施分一億一百万円差引増税実際額二億円

石ノ内入場料税、通行税ハ別途ノ税制ニヨルコト

賀屋税ハ二ヶ年限リ之ヲ廃止ス

但臨時利得特別税及利益配当特別税ハ一年限トス

廃止ノ上ハ夫々税目別ニ事実上他税ニ綜合ノコト

戦時利得税ノ新設

第二年目以降戦時利得額ニ對シ税率四割（課税方法研究ノコト）

臨時利得税、臨時利得特別税及利益配当特別税ハ之ヲ本税中ニ綜合ス

切符税、通行税及兵役税ノ新設

何レモ初年度ヨリ新設ノコト

ハ）関聯的諸工作

A 煙草ノ値上―第三年目ニ割引上

B 石油ノ専賣―国防ノ見地ヨリ第二年目実施

C 砂糖ニ於ケル増税―内地ノ増税ト調整

D 特別会計ヨリ繰入増加―郵便及鉄道收入

要約：本計画期間中ニ於テハ賃金増額ニヨル物価騰貴ニヨル特殊ヲ除ク外ハ之ヲ二ヶ年限リトシテ昭和十五年度ニ於テ大増税ヲ断行セントスルモノナリ。但シ賃上税、奢侈品税、遊興支出税ノ如キ若干ノ新設ハ戦争用途ト共ニ之ヲ設定セントス。

第六、公債對策

(イ) 公債ノ發行額

前掲財政調理ノ必要上公債財源ニ求ムベキモノ五ヶ年間總額七百五十三億円ニシテ公債ノ發行價格九八円五〇錢ノ割ナラバ新規發行額ハ總額七百六十四億円トナル

			公債發行額	公債發行額計
昭和十三年度	公債發行額	一二七億円		一二七億円
〃十四年度	〃	二一五億円	〃	三四二億円
〃十五年度	〃	二四二億円	〃	五八四億円
〃十六年度	〃	一五八億円	〃	七四二億円
〃十七年度	〃	二二億円	〃	七六四億円
計	〃	七六四億円		

仍テ本年度末国債總額概算百四十億円ト押ヘルトキハ本計畫五ヶ年後ニ於ケル国債總額概算九百五億円ヲ豫測セラルベシ

(ロ) 公債政策ノ樹立

本財政計畫ニ於テハ少クトモ基本財政所属ノ範囲ニ於テハ前顕ノ建前ニ依リ特殊中財政ノ目標ノ下ニ之ニ要スベキ租税ノ増徴

フ計ルベキモノナルノミナラズ戦費會計ニ於テモ適當ノ稅負担ヲ課スベキモノトナシタルモ租稅及稅外收入ハ本計畫五ケ年間ヲ一期トシテ其ノ二割ニ分ヲ支辨スルニ過ギズ公債ノ增發七百六十四億円ノ巨額ヲ算スベキハ前際ノ所ノ如シ

仍テ先ヅ之ガ消化對策ハ実ニ我ガ戰時財政ノ成否ヲ決スベキ要諦ナルト共ニ之ガ樹立ニ當ッテハ他方金融政策ノ確立ト相俟ッテ政府ハ豫メ確乎不動ノ方針ヲ以テ之ニ臨ムノ要アルヤ勿論ナリ

(ハ) 戰時公債ノ償還計畫

本計畫五ケ年間ニ於ケル公債ノ發行額七百六十四億円、之ヲ加算シタル國債總額九百五億円ニ對シ之ガ償還計畫ヲ樹立スルニ當ッテ先ヅ問題トナルハ償還ノ對象ヲ何ニ求ムベキヤノ点ナリ

A、國債總額ナラバ　九〇五億円

B、内債總額ナラバ　八九二億円

C、本計畫期間中ノモノナラバ　七六四億円

D、更ニ支那事変公債ヲ加算セバ　七八九億円

E、右ノ内一般國防費分ヲ控除セバ　七〇三億円（事変費及戰費実額相当）

今假リニEノ場合即チ事変費並戰費実額ニ対スベキ總額七百三億円ヲ償還ノ目標ト仮定セバ戰後ニ於ケル增收率租稅平均一二%稅外收入平均　七%ナラシムルガ如キ歲入計畫ヲ樹立スルトキハ一般國防費及行政費ノ自然增加ヲ累年五%ト押ヘルモ他方公債ノ低利借替ニ依ル公債費軽減ノ途モアリ大体十五ケ年完濟ノ償還計画案ヲ得ラルベキ見込ニシテ仍チ計画遂行後ニ於ケル國債總額ハ概念的ニ概算ニ百億円ト・ナル計算ナリ

然ラバ他方當該期間中ニ於ケル國策ノ前進ニ伴ッテ当然膨脹スベキ公債額ヲ仮ニ百五十億円内外ト見込ムトモ戰後十五ヶ年ニシテ國債總額ハ大約三百五十億円ト概算シ得ベキ勘定ナルガ素ヨリ今ニシテ之ヲ豫測スルハ当ラズ

更ニ二十ヶ年償還ノ目標ナラバ租稅平均八、五%稅外收入平均五%ノ增收率ニ止マルトモ一般國防費及行政費ノ方面ニ年々五%方ノ累增ヲ賄ヒ得テ猶且ツ前記戰時公債七百三億円ノ完濟ヲ豫算セラルベシ

第七、物價騰貴トノ関係

戰時物價騰貴ノ大勢ニ就テハ何人モ異論ヲ挿ムコト能ハズト雖モ豫メ其ノ程度ヲ測定スルコト殆ンド不可能ニ屬ス。然レドモ強イテ一應ノ目安ヲ求メンガ爲メ歐洲大戰当時ノ經驗等ヲモ參酌シテ以テ將來ノ物價騰貴ヲ前二ケ年各二割増、後三ケ年各三割増ト仮定セバ本年度ヲ一〇〇トスル指數八一二〇――一四四――一八七――二四三――三一六トナルヲ以テ之ニ基イテ他方行政費ト戰費トニ於テ占ムル物件費ノ割合ヲ求メ又増俸其他人件費ノ増嵩ヲモ併セ考慮スルトキハ本計畫五ケ年間ニ於テ收支差引支出超過額三百億乃至四百五十億円ヲ増加スベキ見込ナルヲ以テ從ツテ要スベキ公債ノ發行額ハ結局千五十億乃至千二百億円トナル計算ニシテ戰時價格統制其他物價對策樹立ノ要如何ニ緊切ナルカハ此ノ一点ヨリモ極メテ明瞭ナルト同時ニ戰時財政計畫樹立ノ必要ハ一層重大ヲ加フルニ至ルヲ知ルベシ

第九　所要戰費ト物資需給ノ関係

イ、所要戰費ノ内譯

所要戰費總額及其内譯ヲ左ノ如ク概定ス。但シ(2)以下ノ内譯ハ略々今次事變ノ經驗ヲ基礎トシテ算出セルモノトス。

戰費總額		六七四億圓	(一〇〇%)
(A) 人件費		一三五億圓	(二〇)
(B) 物件費其他		五三九億圓	(八〇)
(1) 狹義ノ軍需品		二一六億圓	(四〇%)
(ロ) 其他資材		三二三億圓	(六〇%)
(a) 日満		二九一億圓	(九〇)
(b) 戰地		三二億圓	(一〇)

ロ、昭和十三年分ニ於テ対ABB戰トナル場合ノ物資需給関係

(1) 前表ニヨレバ日満ニ於テ調達スヘキ軍需品ハ三ケ年間ニ二一六億圓ナリ。之レヲ戰費ノ割合(一八八億、二四三億、二四三億)ニ從ツテ年次割ニスレバ第一年六〇億、第二年及

第三年七八億トナル。シカルニ日満ニ於テ調達シ得ル軍需品ハ産業拡充計画ノ順當ナル進行ヲ前提トスルモ尚且ツ次ノ如キモノニスギズ。

	第一年 百万円	第二年 百万円	第三年 百万円	合計 百万円
兵器弾薬	一一六五	一、一六五	一、四二〇	三、八五〇
航空機	二二九	七〇七	一、〇八五	二、一二一
軍用自動車	三七九	四七九	五八一	一、四二九
船舶	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一、五〇〇
軍用機械	四五二	五五四	六五六	一、六六二
石油	一一七	二五二	四八八	八五七
ソノ他	一〇〇	一五〇	二〇〇	四五〇
計	三、〇四二	三、九〇七	四、九三〇	一一、八七九

従ツテ第一年度三〇億、第二年度三九億、第三年度二九億合計九八億円ノ軍需品ハ之ヲ海外ニ求メサル可ラス。假リニ一般産業ノ軍需工業ヘノ転換、生産労働ノ強化等ニヨリ

上記供給分ガ二割程度（二二億）増加スルトスルモ尚七四億円ノ輸入ヲ必要トスヘシ。

(2) 扶義ノ軍需品以外ノ資材トハ衣料食糧ハ勿論、其他需品衛生、馬匹、運輸通信等ヲ指スモノニシテ純然タル物資以外ノ要素ヲ包含シソノ調達形態極メテ錯雑スルヲ以テ需給関係分明ナラサルモ假リニコノ三割ヲ物資購入ニ充ツルモノトミレハ八七億、年平均ニ九億トナル。然ルニ我国ノ之ニ対應スル物資ノ生産額ハ一年約一三〇億（内外地總生産額一七〇億ヨリ軍需及輸出分ヲ控除セルモノ）ナルヲ以テ相当程度民需ヲ犠牲セバ略自給シ得ルモノト認メラル。

(3) 以上ヲ總括スルニ、十三年半ニ於テ対AB戦ニ移ルトキハ三ケ年ノ戦争期間ニ於テ約七四億（総戦費ノ約一〇%）尚此外ニ軍需工業振興用ノ生産資材及原料等ノ輸入約大一億アリ）ノ資材ヲ輸入ニ待ツノ他ナシ。然ルニ戦費関係以外ノ一般輸入及従来ノ支拂超過勘定ヲ考慮スレハ別項ニ明示セル如ク国際貸借ノ状況上、究極ニ於テ海外ニ支拂ヒ得ル資

金ハ可成リ強力ナル統制ヲ以テシテモ尚三ヶ年間ニ約二〇億程度トミルヲ妥当トスヘク結局五四億ノ資材ハ調達不可能トナルベシ

(4) シカモ、右ハ戦時輸入ノ可能ヲ前提トシタルモノニシテ実際ニ於テハ開戦ト共ニC国ノ中立法ノ発動D国ノ経済断交等ニヨリ輸入ノ比較的困難ヲ来スヘキハ勿論、軍需品ノ世界的不足ノ結果、絶対的ニ輸入不可能ナル資材ノ生シ得ヘキコトモ考慮セサル可ラス。一方右ノ事情ニ於ケル輸出ノ障害カ海外支拂能力ノ過半ヲ減削スル恐レアルヲ豫期セサル可ラス。

(5) 要之、十三年度対AB戦ニ移リ、豫定サルル如キ規模ニ於テ充実セル戦争ヲ遂行シ得ルカ為ニハ少クモ

イ、国民ノ消費生活ノ極端ナル抑圧カ三ヶ年間愛国的熱情ニ於テ継続サルルコト

ロ、戦時輸出及輸入ノ略々障害ナク行ハルルコト

ハ、戦争中ニモ拘ラス産業振興計画カ順調ニ進行スルコト

ニ、五四億円程度ノクレディットノ成立スルコトヲ前提トセサル可ラス。第一項ハ恐ラク之ヲ期待シ得ヘシ。第二項第三項亦殆ンハクハ天佑ノ之ヲ家ルルアラン、サレト第四項ニ至ツテハ到底之ヲ期待シ難キモノト認メサルヲ得サルナリ。

(6) 故ニ不幸ニシテ十三年半ニ於テ対AB戦ニ移行シ、且ツクレディットト成立不可能ナル場合ニハ次ノ如キ窮余ノ手段ニ訴ヘサル可ラス

イ、民需工場ノ転換、労働強化、民間ストックノ引上、民需ノ極端ナル圧迫等ニヨリ軍需品ノ供給ヲ一一九億ヨリ四割以上増加セシメテ一七〇億トスレハ不足分ハ四六億ニ減ス

ロ、以上ノ輸入所要額四六億ニ対シ、第十、海外支拂能力推定ノB案ニ示ス如キ一般輸入ノ極度ノ抑制、在外資産ノ全面的動員、正貨準備全部ノ放出等ノ非常手段ニヨリ四五億ノ海外支拂手段ヲ獲得シテ略々之ヲ支弁ス

但シコノ場合モ尚既述(4)ノ場合ニハ戦争資材其ノ他ノ物資

輸入不可能トナリ從ツテソノ限リ戦爭規模ノ縮少ヲ免レサルヘク又、戦爭カ三ヶ年以上ニ及フトキハ海外支拂手段ノ枯渇ニヨリ着シキ困難ニ遭會スヘキヲ豫想セサル可ラス

第十、海外支拂能力推定

イ、支拂能力推定ノ概要

十三年度開戦ノ場合莫大ナル戦費ノ海外支拂ニ対應スル為ニハ、極力民需輸入ヲ抑圧シ、滿洲北支ノ資源開発ニ依リ海外拂ヲ減少スル外産金増加、正貨準備及国民貯蔵金ノ動員、在外資産ノ處分、「クレディット」ノ設定等凡ユル支拂手段ヲ講ヒサルベカラス。

而シテ右ノ方策ノ中、国民経済生活ヲ圧迫スル程度ニ依リ左ノ二場合ヲ分ツテ考察スルコトヲ要ス。

A. 支那事変ニヨル國民経済生活ノ圧迫ガ強化サルルハ不得已ト雖モ国民経済ノ破壊ヲ防止シ、長期抗戦ノ力ヲ維持セムトスル場合、

B. 全国力ヲ對ABヲ戦ニ費シ、国民ノ経済生活ヲ最大限度ニ圧迫シ

戰後ノ余力ナカラシムルモ辞セサル場合、即国家存亡ノ秋ニ際シ眞ニ国運ヲ賭シテ戰フ場合。

右ノ二場合ニ於ケル戰費ノ海外支拂分内譯左ノ如シ（單位百万圓）

A、

項目	第一年度	第二年度	第三年度	合計
1、日滿北支國際收支尻	△三五九	△三三六	△三〇〇	△九九五
2 北支資源開發ニ依ル海外拂節約	一九三	二五八	三四七	七九八
3、日滿北支産金現送	二八一	三六一	四二七	一、〇六九
4 正貨準備現送	二五〇	二〇〇	一五〇	六〇〇
5 國民貯藏金ノ買上	—	—	—	—
6 在外資産ノ動員	一五〇	一五〇	一〇〇	四〇〇
7、滿洲「クレデイツト」設定	三五	三五	三五	一〇五
小計	五五〇	六六八	七九九	一、九七七
8、「クレデイツト」設定	一、五五〇	一、九八二	一、八九一	五、四二三
合計	二、一〇〇	二、六五〇	二、六五〇	七、四〇〇

B、

項目	第一年度	第二年度	第三年度	合計
1 日滿北支國際收支尻	七八	一〇一	一三七	三一六
2 北支資源開發ニ依ル海外拂節約	一九三	二五八	三四七	七九八
3 日滿北支産金現送	二八一	三六一	四二七	一、〇六九
4 正貨準備現送	四〇〇	四〇〇	二〇〇	一、〇〇〇

項目	第一年度	第二年度	第三年度	合計
5 国民財産金ノ買上	一五〇	一五〇	一〇〇	四〇〇
6 在外資金ノ動員	三〇〇	二五〇	二五〇	八〇〇
7 満拓「クレディット」設定	三五	三五	三五	一〇五
小計	一、四三七	一、五五五	一、四九六	四、四八八
8 過不足額	(+) 一三七	(−) 九五	(−) 一五四	(−) 一一二
合計	一、三〇〇	一、六五〇	一、六五〇	四、六〇〇

(ロ) 推定ノ内譯説明

上記二案ノ各項目ニ付内訳説明スルコト次ノ如シ

(イ) 日満北支国際收支

A B両場合ニ於ケル日満北支経済一体トスル国際收支概略予想次ノ如シ

A ノ場合ニ於ケル日満北支一体国際收支予想表（単位百万円）

国別		参考実績	第一年度	第二年度	第三年度	合計
本邦	貿易 輸出	二、二一九	二、〇〇二	二、八三七	二、六七一	八、五一一
	輸入	三、九五五	三、三五九	三、三五九	三、三五九	一〇、〇七七
	出入(△)超	△ 六三六	△ 三五七	△ 五二二	△ 六八八	△ 一、五六六
	貿易外 受取	一、五六六	一、五〇六	一、四八六	一、四六六	四、四五八
	支拂	一、六〇二	一、八〇二	一、八〇二	一、八〇二	五、四〇六
	受拂(△)超	△ 三六	△ 二九六	△ 三一六	△ 三三六	△ 九四八
	国際收支計	△ 六八二	△ 六五二	△ 八三八	△ 一、〇二四	△ 三、五一四
満洲	貿易 輸出	六五六	六二二	五九〇	五五七	一、七七〇
	輸入	八三〇	七三六	七三六	七三五	二、二〇七
	出入(△)超	△ 一七四	△ 一一三	△ 一四六	△ 一七八	△ 四三七
	貿易外 受取	七六二	八一二	九一九	一、〇三三	三、七六四
	支拂	五九五	四〇〇	四二一	四四二	一、三六三

日ノ場合ニ於ケル日鮮北支一体圏貿收支予想表（単位百万円）

国別		繰越実績	第一年度	第二年度	第三年度	合計
日鮮	輸出	三一九	二八九〇	二七三四	二五三八	八一七二
	輸入	三九五五	二八〇九	二八〇九	二八〇九	八四二七
支那	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

洲						
外	受拂(△)超	一六八	四二二	四九八	五九一	一五〇一
	國際收支計	六	二九九	三五二	四一二	一〇六四
北支	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

洲						
外	受拂(△)超	一六八	四二二	四九八	五九一	一五〇一
	國際收支計	六	二九九	三五二	四一二	一〇六四
北支	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

洲						
外	受拂(△)超	一六八	四二二	四九八	五九一	一五〇一
	國際收支計	六	二九九	三五二	四一二	一〇六四
北支	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

洲						
外	受拂(△)超	一六八	四二二	四九八	五九一	一五〇一
	國際收支計	六	二九九	三五二	四一二	一〇六四
北支	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

洲						
外	受拂(△)超	一六八	四二二	四九八	五九一	一五〇一
	國際收支計	六	二九九	三五二	四一二	一〇六四
北支	輸出	三八九	三六〇	四一三	四六七	一三四〇
	輸入	四七二	五九七	五七六	五五五	一七二八
	出入(△)超	△ 八三	△ 三三七	△ 一六三	△ 八八	△ 四八八
	受取	九一	三〇五	四〇〇	五〇〇	一二〇五
	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
	出入(△)超	三二	三三一	三一三	三九九	九四三
	國際收支計	一五一	△ 六	一五〇	三一一	四五五
日鮮北支國際收支		△ 七一七	△ 三五九	△ 三三六	△ 三〇〇	△ 九九五

（補考）

那						
貿易	受取	九一	二〇五	四〇〇	五〇〇	一、二〇五
外支	支拂	五九	七四	八七	一〇一	二六二
國際收支計	出入(△)超	三二	二三一	三一二	三九九	九四三
日満北支國際收支		△ 七一七	△ 六	一五〇	三一一	四五五
				一〇一	一三七	三一六

(a) 民需輸入ノ抑制

昭和十二年度ノ実績ヲ参照シ、民需輸入抑制ノ程度ヲ見ルニ (A)ノ場合六億三千六百万円、(B)ノ場合十億七千六百万円ノ輸入抑制ヲナスコトヲ得ベシ。

(b) 輸入制限ニ因ル輸出限

極端ナル輸入抑制ノ結果「バータ」主義ニ基ク輸出減ヲ免ルレバ其程度ヲ昭和十二年度ノ実績ヲ参照シテ概算セバ如ク豫想ス。

イ、場合　一億五千万円

ロ、場合　二億六千三百万圓

(c) 戰爭ニ依ル資源減及海運收入減

平和産業ノ軍需工業化輸入原料及労働力不足・輸出物価ノ騰貴・輸送能力減退等ニ因リ輸出及海運收入ノ減少ヲ免カレズ、之ヲ左ノ如ク推定ス。（單位百万円）

	第一年度	第二年度	第三年度	合計
輸出減	一六六	三三二	四九八	九九六
海運收入減	六〇	八〇	一〇〇	二四〇
合計	二二六	四一二	五九八	一、二三六

(2)、北支資源開發ニヨル海外拂節約

北支開發計畫確定ノ始ク進捗スルモノトスレバ、日満北支一体經濟「ブロック」ノ理論ニ基キ、日本側及北支側ニ於テ左ノ如ク海外拂ヲ「ブロック」内拂ニ轉換シテ海外拂ヲ節約スルコトヲ得ベシ。

（日本）（單位百万円）

	第一年度	第二年度	第三年度	合計
棉花	六八	九八	一二八	二九四
鉄	—	一〇	三六	四六
鉱石	一一	一一	一九	四一
石炭	一二	三六	六〇	一〇八
塩	二	三	四	九
合計	九三	一五八	二四七	四九八

（北支）北支ノ外國及中南支ニ対スル輸入三億三百万円ノ中三分ノ一ヲ我國ニ轉換スルトスレバ毎年一億ノ外貨払節約ヲナスコ

トヲ得ヘシ

(3) 日満北支ノ産金 (單位百万円)

	日本	満州	北支	合計
第一年度	二五六	一五	一〇	二八一
第二年度	三二九	二二	一〇	三六一
第三年度	三八一	三六	一〇	四二七
計	九六六	七三	三〇	一〇六九

(備考)

(1)、日満ハ商工省五ヶ年計畫ニヨル

(2)、北支ハ産業部調査ニヨル

(4) 正貨準備現送

日満中央銀行ノ正貨準備十億餘円(日銀八億其他二億)存スルニ付之ヲ左ノ如ク現送シ海外拂ニ充当スルモノトス。

(單位百万円)

	第一年度	第二年度	第三年度	合計
A ノ場合	二五〇	二〇〇	一五〇	六〇〇
B ノ場合	四〇〇	四〇〇	二〇〇	一、〇〇〇

(5) 國内死藏金ノ動員

B ノ場合ニ於テ國民ノ愛國心ニ訴ヘ、自発的ニ國民ノ所有スル金製品ヲ提供セシメ、之ヲ政府ニ於テ買取ルコトトス

(單位百万円)

第一年度	第二年度	第三年度	合計
一五〇	一五〇	一〇〇	四〇〇

(6)、在外資産ノ動員

本邦人所有在外資産（外国證券、外国予金及外国貸付金）總額時価十億及其他動産不動産アルニツキ、之ヲ左ノ如ク動員処分スルモノトス。

（單位百万円）

	第一年度	第二年度	第三年度	合計
A ノ場合	一五〇	一五〇	一〇〇	四〇〇
B ノ場合	三〇〇	二五〇	二五〇	八〇〇

(7)、滿鮮「クレデイツト」設定

滿鮮クレデイツト年額三千五百万円宛三ケ年間成立スルモノトシテ一億五百万円ヲ予想ス。

表目次

第一表　各會計別歳出歳入計畫一覽表
第二表　戰時戦政綜合五ケ年計畫案
第三表　戰時基本戦政ノ理論的構成一覽表
第四表　戰費特別會計ノ理論的構成一覽表
第五表　租税收入種類別明細表
第六表　租税收入增新税内譯明細表
第七表　税外收入明細一覽表
第八表　公債發行豫定額一覽表
第九表　戰時公債償還年次試算表（參考）
第十表　物價騰貴率並歳費增額見込表（參考）

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	—	—	—	—	—	—
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

[illegible]

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第一表　各會計別歲出歲入計畫一覽表　（單位百万円）

戰時一般會計歲出歲入豫算

科目	十二年度（基準年度）	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五年間計
歲出							
軍事費	一、四一〇	八〇〇	一	一	九〇〇	二、四〇〇	四、一〇〇
行政費	一、〇五五	一、四〇三	一、大五三	一、七二〇	一、大三三	一、四四五	七、八五四
公債費	四一七	大四〇	一、一八九	二、一大〇	二、一〇二	二、大大三	一〇、七五四
計	二、八八二	二、八四三	二、八四二	二、八八〇	五、大三五	七、五〇八	二二、七〇八
歲入							
租稅收入	一、三一三	一、五一七	一、七八四	二、五七五	二、〇九八	二、八〇〇	一二、七七四
稅外收入	七四一	八二三	九四九	一、二一三	一、四三二	一、五九大	大、〇一三
小計	二、〇五四	二、三四〇	二、七三三	二、七八八	四、五三〇	五、三九大	一八、七八七
公債金	八二八	五〇三	一〇九	九二	一、一〇五	二、一一二	三、九二一
計	二、八八二	二、八四三	二、八四二	二、八八〇	五、大三五	七、五〇八	二二、七〇八

戰費特別會計歲出歲入豫算

科目	十二年度（基準年度）	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計
歲出							
戰費	二、五大一	一二、四〇〇	二一、大〇〇	二四、三〇〇	一五、一〇〇	五〇〇	七三、九〇〇
計	二、五大一	一二、四〇〇	二一、大〇〇	二四、三〇〇	一五、一〇〇	五〇〇	七三、九〇〇
歲入							
戰時臨時稅	大九	三三九	五五一	五七〇	大四二	四大二	二、五大四
公債金	二、四九二	一二、〇六一	二一、〇四九	二三、七三〇	一四、四五八	三八	七一、三三大
計	二、五大一	一二、四〇〇	二一、大〇〇	二四、三〇〇	一五、一〇〇	五〇〇	七三、九〇〇

第二表

戰時戰政綜合五ヶ年計畫案

△印ハ減　（單位百萬圓）

歳出

歳出	基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百分	備考
軍事費	三、九七一	一三、二〇〇	二一、六〇〇	二四、三〇〇	一六、〇〇〇	二、九〇〇	七八、〇〇〇	30.7	戰費中二八一萬圓防費及復員費ヲ含ム
國防費	一、四一〇	八〇〇	—	—	九〇〇	二、四〇〇	四、一〇〇		
戰費	二、五六一	一二、四〇〇	二一、六〇〇	二四、二〇〇	一五、一〇〇	五〇〇	七三、九〇〇		
行政費	一、〇五五	一、四〇三	一、六五三	一、七二〇	一、六三三	一、四四五	七、八五四	8.2%	
基本額	一、〇五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇五〇	一、〇五〇	五、二〇〇		
生産力拡充費	—	一〇三	二〇三	二七〇	二八三	一四五	一、〇〇四		
銃後費	—	三〇〇	四五〇	四五〇	三〇〇	一五〇	一、六五〇		
公債費	四一七	六四〇	一、一八九	二、一六〇	三、一〇二	三、六六三	一〇、七五四	11.1%	公債條件 発行価格九八四五〇錢 利率第一年 三、五% 第二年 四、〇% 第三年以後 四、五
前年基本額	三八三	四一〇	五二八	九七五	一、八二四	二、八九八	六、六三五		
前年発行分	二七	一一八	四四九	八六〇	一、一〇〇	七三七	三、二六四		
當年発行分	七	一一二	二一二	二二五	一七八	二八	八五五		
總計	五、四四四	一五、二四三	二四、四四二	二八、一八〇	二〇、七三五	八、〇〇八	九六、六〇八	100	
各年增減額	—	九、七九九	九、一九九	三、七三八	△七四四五	△一二、七二七	—		

歳入

歳入	基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百分	備考
租稅收入	一、三八〇	一、八五六	二、三三五	三、一四五	三、七四〇	四、二六二	一五、三三八	15.9%	增新稅總額ノ二三%
基本額	一、三八〇	一、四一五	一、四一五	一、三一三	一、三一三	一、三一三	六、七六九		
增新稅稅	—	三〇七	五五八	九一七	九二五	九三三	三、六四〇		
自然增收	—	一三四	三六二	九一五	一、五〇二	二、〇一六	四、九二九		
稅外收入	七四一	八二三	九四九	一、二一三	一、四三二	一、五九六	六、〇一三	6.2%	增收工作一五% 自然增收 二四%
基本額	七四一	七四一	七四一	七四一	七四一	七四一	三、七〇五		
增收工作額	—	三六	四九	二〇〇	二七〇	三二〇	八七五		
自然增收	—	四六	一五九	二七〇	四二一	五三五	一、四三三		
小計	二、一二一	二、六七九	三、二八四	四三五八	五、一七二	五、八五八	二一、三五一	22.1%	
各年增減	—	五五六	六〇五	一、〇七四	八一四	大八六	—		
增減額累計	—	五五六	一、一六一	二、二三五	三、〇四九	三、七三五	一〇、七三六		
公債收入	三、三二三	一二、五六四	二一、一五八	二三、八二二	一五、五六三	二、一五〇	七五、二五七	77.9%	
總計	五、四四四	一五、二四三	二四、四四二	二八、一八〇	二〇、七三五	八、〇〇八	九六、六〇八	100	

摘要

一、五ヶ年間歳出總額九百六拾六億圓

一、之ニ対シ租稅及稅外收入二百十四億圓タラシムルヲ如キ戰政ノ建前ヨトル

一、即チ公債財源ニヨルモノ差引七百五十二億圓トナル　恰モ戰費七百三十九億圓及銃後費ノ内基本戰政支弁分控除　十四億圓　計七百五十二億圓ニ相當ス

第三表

戰時基本財政ノ理論的構成表

△印ハ減

（單位百萬圓）

歳出	基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百	備考
國防費	一、四一〇	一、八〇〇	二、九〇〇	三、二〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	一二、七〇〇	58.1%	概算額計上
行政費	一、〇五九	一、一五二	一、二五三	一、三二〇	一、三八二	一、三四五	六、四五四	29.5%	一般行政費ハ節約上新規計上若干ヲ認ムル
基本額	一、〇五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇五〇	一、一五〇	五、二〇〇		戰前生産力擴充助成費ハ生産費五ヶ年計畫ニ基ク
生産力擴充費	—	一〇三	二〇三	二七〇	二八三	一四五	一、〇〇四		
鉄道費	—	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	二五〇		
公債費	四一七	四四八	四九四	五五六	五九九	六〇〇	二、六九三	12.4%	公債條件 發行價格九八四五〇錢 利率 三、五% 戰時利率ノ高騰ハ別途計上
前年基公額	一三八三	四一〇	四三九	四七七	五四三	五九三	二、四六二		
前年發行分	二七	二九	三八	六六	五〇	七	一九〇		
當年分	七	九	一七	一三	二	一	四一		
總計	二、八八二	三、四〇一	四、六四七	五、〇六六	四、三七八	四、三四五	二一、八四七	100	
各年增減額	—	五一九	一、二四六	四二九	△六九八	△三三	—		
增減額累計	—	五一九	一、七六五	二、一九四	一、四九六	一、四六三	七、四三七		

歳入	基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百	備考
租稅收入	一、三一三	一、五三三	一、八二三	二、四五七	二、七五五	三、〇八六	一一、六五四	53.3%	租稅增收五十億圓
基本額	一、三一三	一、三一三	一、三一三	一、三一三	一、三一三	一、三一三	六、五六五		
增新稅	—	七〇	二二〇	六四五	大大三	大七一	二、二七九		
自然增收	—	一五〇	二九〇	四八九	七七九	一、〇〇二	二、八一〇		
稅外收入	七四一	八二三	九四九	一、二一三	一、四三二	一、五九六	六、〇一三	27.5%	稅外收入總計二十三億圓
基本額	七四一	七四一	七四一	七四一	七四一	七四一	三、七〇五		
增收作額	—	三六	四九	二〇〇	二七〇	三二〇	八七五		
自然增收	—	四六	一五九	二七二	四二一	五三五	一、四三三		
小計	二、〇五四	二、三五六	二、七七二	三、六七〇	四、一八七	四、六八二	一七、六六七		
各年增減額	—	三〇四	四一六	八九八	五一七	四九五	—	80.8%	
增減額累計	—	三〇四	七二〇	一、六一八	二、一三五	二、六三〇	七、四〇七		
公債收入	八二八	一、〇四九	一、八七五	一、〇四〇六	△一九一	△三三七	四、一八〇	19.2%	
總計	二、八八二	三、四〇一	四、六四七	五、〇七六	四、三七八	四、三四五	二一、八四七	100	

要綱

一、五ヶ年間歳出ノ增加七十四億圓

一、全ジク稅外收入ノ增加見込二十三億圓

一、差引五十一億圓ヲ租稅ノ增收ニ求メ以テ待機中財政ノ基礎ヲ確立ス

第四表

戰費特別賞會計ノ理論的構成表

△印ハ減　　（單位百万円）

支出	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百分	備考
戰費	二五六一	一二四〇〇	二二六〇〇	二四三〇〇	一二一〇〇	五〇〇	七三九〇〇	19.7%	一般會計ヨリ國防費ヲ差引ク
銃後費	—	二五〇	四〇〇	四〇〇	二五〇	一〇〇	一四〇〇	1.7%	
（臨時費繰戻）	—	（三〇〇）	（四五〇）	（四五〇）	（三〇〇）	（一五〇）	（一六五〇）		（一般會計ヨリ分離）
公債費	—	一九三	二九五	二六〇四	二五〇七	三〇六三	八〇六一	9.6%	公債條件 發行額 九百五億 第一年 五九 第二年 四〇 第三年以降四五
前年度繰越	—	六三	八九	四九八	二二八一	六三〇五	四一七三		
前年度發行分	—	八九	四〇九	七八三	一〇三四	七〇二	三一〇七		
当年度発行分	—	一〇三	一九五	三一二	一七六	二八	八一四		
一般會計繰入	—	—	二	一一	二六	二八	六七		
總計	二五六一	一二八四二	二二六九五	二六三〇四	一七八五七	三六六三	八三三六一	100	
各年增減額	—	一〇二八一	九八五三	三六〇九	△八四四七	△一四一九四			

歳源	十二年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	比率百分	備考
戰時特別稅	六七	三三九	五五一	五七〇	六四二	四六二	二五六四		戰時利得稅ヲ至ト
基本項	六七	一〇二	一〇二	—	—	—	二〇四		
酒新稅		二三七	二二八	二六二	二六二	二六二	一三六一		
自然增收	—	—	一一一	三〇八	三八〇	二〇〇	九九〇		
一般會計繰入	—	一六	△三九	一一八	三四三	七一四	一一三〇		
基本項增稅	—	—	—	—	—	—	—		
酒新稅增稅	—	—	—	—	—	—	—		
自然增收	—	△一六	△三九	一一八	三四三	七一四	一一三〇		
小計	六七	三二三	五一二	六八八	九八五	一一七六	三六八四	44%	
國防費引當金	—	一〇〇〇	二九〇〇	三二〇〇	一五〇〇	—	八六二〇	10.3	一般會計ヨリ分
合計	六七	一三三三	三四一二	三八八八	二四八五	一一七六	一二三八四	147	
各年度額		一二五六	二〇八九	四七六	△一四〇三	△一二〇九			
公債收入	二四九二	二五一九	一七二三	二四一六	一五三七	二四八八	七一〇八	85.3	
總計	二五六一	一二八四二	二二六九五	二六三〇四	一七八五七	三六六三	八三三六一	100	

摘要

一、昭和十三年度半ニシテ支那事変ヨリ対A及戰ニ移リ三ヶ年間継続ノ一、然ルニ公債收入以外ノ実收入ハ國防費引当分ヲ除シ五ヶ年間計百二十三億円ト公債ノ發行ハ政府ノ決定十二億円全額ノ塡補ニ見合ハシメントスルモノナリ

一、戰時公債費ハ十一億円ヲ銃後費十四億円ヲ支弁スルモ猶ホ余剰ヲ以テ戰費ノ内二十八億円ヲ支弁シ得ベキ計算ニ差引四十二億円ノ余剰アリ

一、本年度ニ於ケル財源捻出ノ建前ハ戰費及銃後費ニ対シテハ其全額ヲ公債ノ發行ニ求ムベシトモ右余剰金四十二億円ヲ以テ一般会計ニ於ケル赤字四十億円ニ充ツルモノナリ

第五表

租税收入種類別明細表

（単位百万円）

経常部	基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	備考
所得税	四三〇	五三七	六七二	七二七〇	七五八八	七九八五	六〇五一	増税（基本税率）
地租	五九	五九	六二	六五	六八	七一	三二五	
営業収益税	七二	九二	一〇六	一四〇	一六一	一八五	六八四	増税二〇％
資本利子税	二九	一	四二	一三八	七〇	八四	二八九	増税二〇％
法人資本税	一五	二一	二五	二五	四二	五〇	一七二	
相続税	二二	三六	四〇	四八	五八	六九	二五一	増税一〇〇％
鉱業税	六	九	一〇	一四	二〇	二二	七六	
外債特別税	二二	二	二	二	二	二	一五	
酒税	二二五	二六九	二八二	二九六	三二五	三七四	七四六	
清涼飲料税	四	五	五	五	六	六	二七	
砂糖消費税	九九	一〇七	一一八	一四二	一五六	一七二	六九五	関屋税綜合
織物消費税	四二	三六	三六	三六	三六	三六	一八〇	
煙草専売益	一五	一六	一	一	一	一	一	（石油事業）
取引所税	一九	二〇	二二	四八	五二	五九	二二二	関屋税綜合
鑛業移出税	五	五	五	六	六	六	二八	
砂糖消費税	一	一	新一八	三六	三八	四〇	一二二	新税重複税
遊興交出税	一	一	新五八	五八	五八	六七	二四一	新税
貴上税	一	一	新九〇	一三五	二〇三	三〇四	七二二	新税
関税	一七九	一七六	一七六	一七六	二〇一	二六二	九九二	
噸税	二	三	四	四	五	四	二〇	
小計	八二五〇	二四三九	八七八四	二五七五	三〇九八	三八〇〇	一二六九六	
臨時部								
臨時利得税	六二	七八	一	一	一	一	七八	廃止
戦時臨時税	六六	一	一	一	一	一	一	
賃貸地税	六六	二八三	一七八	一	一	一	四六一	廃止
戦時利得税・	一		訂二九九	四八一	五三六	三六九	二六八六	新税
矢状税	一	統四	一四	一九	二二	一	六〇	新税
切符税	一	新二三	二五	二八	二一	二五	一四二	新税
通行税	一	新二九	三五	四二	五一	五八	二一五	新税
小計	一三〇	四一七	五五一	五七〇	六四二	四六二	二六四二	
合計	八三八〇	八八五六	二二三三五	二一四五	二七四〇	二四六二	一五二三八	

備考
一、昭和四十三年度ハ改特別会計ヲ除ク
二、昭和十七年度ハ基準年度ニ対スル指数三〇九

第六表

租税收入増新税内訳明細表

（単位百万円）

税目＼年度		基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五年間計	備考
所得税		四三〇	五三七	六七一	八三七〇	八五八八	八九八五	六〇五一	増税率 第三年目 六〇% 但簡易課税ハ物品税ニ準ジ 実質的ニハ三三%増税
	基本類	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	二一五〇	
	増税		年度内 七〇	七〇	一四六八	四六八	四六八	八五四四	
	自然増収		三七	一九一	一六三	二二二	五〇五	八一一八	
	戦時自然増収			八〇 25	二〇九 25	三六八 25	五八二 25	八三三九	
営業収益税		七三	九二	一〇六	一四〇	一六一	一八五	六八四	増税率 第三年目 二〇%
	基本類	七三	七三	七三	七三	七三	七三	三六五	
	増税				二一 20	二一	二一	六三	
	自然増収		一九	二八 10	三三 10	四六 10	六〇 10	一八六	
	戦時自然増収			五 15	一三 15	二一 15	三一 15	七四	
資本利子税		二九	三五	四二	五八	七〇	八四	二八九	第三年目 二〇%
	特別資本増税		二九	二九	二九	二九	二九	一四五	
	臨時新税				二八	二八	二八	二四	
	自然増収		六	四	五	五	五	二二	
	戦時自然増収			九	一九	二八	二八	九八	
資本税				一九〇	一三五	二〇三	二四〇	七三二	第三年度ヨリ新設 但簡易課税ハ物品税ニ準ジ
	新税			一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	三六〇	
	自然増収				一八 20	二四 20	二六 20	一二四	
	戦時自然増収				二六	二四	二八	八四二	
其他諸税		七一三	七七五	八七五	九七二	一〇七六	一二四二	四九〇	総テ 煙草消費税（元専売）
	基本税	七一三	七一三	七一三	七一三	七一三	七一三	三五六五	
	増新税			六〇	六八	七六	八四	二八八	新税 酒税 遊興税（娯楽税廃止）
	自然増収		七八	一四七	二四五	三三二	三二二	一二二五	煙税
	戦時自然増収			△一六	△四五	△五四	△四五	△一三八	相続税 二〇%
臨時利得税		六三	七八					七八	戦時利得税ハ除外
家屋税		六七	六八三	一七八				四六一	税目別ニ固定税率
戦時利得税				二九九	四八一	五三七	三六九	一六六六	利得税率 四〇% （単独基礎有限）
	増新税			二九九	二九九	二九九	二九九	一一九六	
	自然増収				一八二	二三八	七〇	四九〇	
矢税			新 四	一四	一九	二三		六〇	何レモ初年度ヨリ新設
切符税			新 二三	二五	二八	二一	二五	一四二	
通行税			新 二九	三五	四二	五一	五八	二一五	
合計		二三八〇	二八五六	二二二五	二一四五	二七四〇	二九二六	一五三八	

摘要

一、戦時利得税及下ノ家屋税ハ之ヲ戦費合計ノ内訳ト看做ス

一、其ノ他諸税、即チ所得税及下ノ一般合計ノ欄ニ列挙ス

但、戦時自然増収ハ戦費合計ノ内訳ト看做ス

一、米印家屋税三〇一百万円ノ内入場料税一〇百万円通行税八百万円ハ除ミタル数字

第七表

稅外收入明細一覽表

（單位百万円）

		基準年度	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	五ヶ年間計	備考
經常部	印紙收入	八七	一〇四	一二五	一五六	二〇三	二一一	八一一	
	森林收入	四五	五〇	五五	六三	七三	八〇	三二一	
	專賣局益金	二三四	二八九	三二〇	四二五	四七三	五〇八	二、〇一五	
	煙草鹽	二三四	二五七	二八三	三七三	四一〇	四五一	一、七七四	第三年目値上 二、〇%
	石油			三七	五二	六三	五七	二〇九	第三年目値上 二〇% 第五年目値下 二〇%
	印刷局益金	三	三	三	三	三	三	一五	
	官有物貸下料	一	一	一	一	一	一	五	
	配當金收入	二九	三二	三五	三九	四二	四七	一九五	
	刑務所收入	一一	一二	一二	一二	一二	一二	六〇	
	通信事業納付金	八一	八一	八一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四六二	第三年目納付金增額
	日本銀行納付金	一三	一四	一五	一七	一八	二〇	八四	
	雜收入其他	六六	七八	九四	一一六	一四二	一五九	五八九	
	小計	五七〇	六三二	七四一	九三二	一〇六七	一一五三	四、五二五	
臨時部	稅外收入	九九	九七	八六	八九	九八	一〇六	四七二	
	公共團體分担	一八	一三	一三	一三	一三	一三	六五	（國防費分担金）
	滿州國分担金	一九	一九					一九	
	雜收入其他	六二	六五	六九	七六	八五	九三	三八八	
	特別会計繰入	六八	九四	一二六	一九二	二六七	三三七	一、〇一六	
	預金部	六	六	一〇	一五	二一	二一	七三	繰入增加
	通信事業	一三	一五	二〇	二五	三〇	四〇	一五五	繰入增加
	鐵道事業	三〇	五〇	七〇	一〇〇	一五〇	二〇〇	五七〇	繰入增加
	朝鮮總督府	九	一二	一四	二七	三二	三九	一二四	繰入增加
	台灣總督府	五	六	七	一三	一六	一九	六一	繰入增加
	樺太庁	二	二	二	三	三	三	一三	
	關東局	二	二	二	三	四	四	一五	
	南洋庁	一	一	一	一	一	一	五	
	剩餘金	四							
	小計	一七一	一九一	二〇八	二八一	三六五	四四三	一、四八八	
合計		七四一	八二三	九四九	一、二一三	一、四三二	一、五九六	六、〇一三	

摘要

一、稅外收入中ニハ專賣益金始メ實質上租稅ノ性質ヲ帶フルモノヲ含ム

一、特ニ石油專賣ヲ行ハシムル建前

第八表、公債發行豫定一覽表（單位百万円）

戰時基本財政所屬分（理論的考察）

内容＼年次	基準年度（昭和十二年）	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	合計
公債收入	八二八	一、〇四五	一、八七五	一、四〇六	一九一	△五三七	四、一八〇
公債發行額	八四〇	一、〇六一	一、九〇三	一、四二七	一九四	△三四二	四、二四三
公債發行累計	—	一、〇六一	二、九六四	四、三九一	四、五八五	四、二四三	—

戰費特別費會計所屬分（理論的考察）

内容＼年次	基準年度（昭和十二年度）	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	合計
公債收入	二、四二九	一、〇五一九	一九、二八三	二二、四一六	一五、三七二	二、四八八	七一、〇七八
公債發行額	二、五二九	一、〇九二	一九、五七二	二二、七五三	一五、六〇二	二、五二四	七二、一四三
公債發行累計	—	一、〇九二	三一、二六四	五四、〇一七	六九、六一九	七二、一四三	—

戰時綜合財政所屬分（總額）

内容＼年次	基準年度（昭和十二年度）	十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	合計
公債收入	三、三二三	一、二五六四	二一、一五八	二三、八二二	一五、五六三	二、一五〇	七五、二五七
公債發行額	三、三六九	一、二七五三	二一、四七五	二四、一八〇	一五、七九六	二、一八二	七六、三八六
公債發行累計	—	一、二七五三	三四、二二八	五八、四〇八	七四、二〇四	七六、三八六	—

備考

一、公債發行條件

發行價格　九八円五〇錢ト仮定

利率八　三・五％ヨリ四・五％ニ至ルモノト仮定

第九表（秀）

戦債公債十五ヶ年償還年次試算表

年度	歳入 租税	歳入 雑収入	歳入 計	歳出 軍事費	歳出 行政費	歳出 公債費	歳出 計	公債償還可能額	公債償還可能額	備考
								国庫収入	累計	
第一年度	四三六〇	一六〇〇	五八六〇	二九〇〇	一四五〇	三六六〇	八〇一〇	一三五〇		(イ)減債基金見込額ハ〇〇〇
特別会計	三六〇	一	三六〇	一	一〇〇	一	四〇〇			
差引基金繰入	四九〇〇	一六〇〇	五三〇〇	二四〇〇	一三五〇	三六六〇	七四一〇	一九二〇		(ロ)復旧費ハ除ク
第二年度 特別工作	八四九〇	(国庫補助)				〇二四〇	(臨時補償)			(イ)初年度ハ臨時収入ノ為ニ
計上額	三一五〇	一六〇〇	六九一〇	二五〇〇	一四〇〇	三五〇〇	七一五〇	六〇〇	六〇〇	二〇〇〇ヲ三ヶ年ニ等分
第三年度	五九二〇	一九四〇	七八六〇	二七五〇	一五四〇	三五二〇	七八一〇	五〇	五五〇	二年目ヨリ平均一割
第三年度 特別工作						〇三三〇	(臨時補償)			
計上額	六八一〇	二一三〇	八九四〇	二九四〇	一六五〇	三一〇〇	七六六〇	一一八〇	六三〇	(二)高利債ハ償還金ヲ以テ順次ニ償還シ三年目ニ全額償還シ其後ハ年々三割宛償還ス
第四年度	七八三〇	二三〇〇	一〇一六〇	二七一〇	一七六〇	三一三〇	八〇四〇	二一三〇	二七六〇	(ロ)合計ハ高利債ノ償還金ヲ含ム
第五年度	九〇〇〇	二五六〇	一一五六〇	二三三〇	一八九〇	三〇三〇	八三九〇	三八二〇	六四〇	
第一期五ヶ年	三四七一〇	一〇七四〇	四五四五〇	一四六八〇	八〇九〇	一六三四〇	四九四一〇	六〇四〇		総額一九〇
第六年度 特別工作	八三八〇	(国債償還)								
計上額	二六六〇	四五六〇	九八一〇	五四四〇	一九八〇	二九五〇	八四七〇	一三四〇	七六六〇	(一)第六年目減債高三〇〇
第七年度	七九一〇	二九四〇	一〇八五〇	五七二〇	二七八〇	三八〇〇	八六八〇	二一七〇	九五五〇	
第八年度	八八六〇	二一五〇	一〇一一〇	五九二〇	二一八〇	二七九〇	八八八〇	三一三〇	一二六八〇	
第九年度	九九三〇	二三六〇	一二三九〇	五四一〇	二三九〇	二六六〇	九〇六〇	四三四〇	一六九一〇	
第十年度	一〇一〇	二四六〇	一二四六〇	五四三〇	二四〇〇	二四八〇	九〇〇〇	五五二〇	二二四三〇	
第二期五ヶ年	四四八六〇	一五八二〇	六〇六八〇	一二六四〇	一三九五〇	一三七六〇	四四三九〇	一六三九〇		総額一三〇
第十一年度	一二二三〇	二三七九〇	一六〇一〇	五四五〇	二二五〇	二二八〇	九四三〇	六六七〇	二九〇〇	
第十二年度	一二四四〇	二三九八〇	一七四二〇	五四七〇	二六六〇	二四〇〇	九四五〇	七九七〇	三七〇七〇	
第十三年度	一四七八〇	二四一八〇	一八九六〇	五七一〇	二七八〇	一〇七三〇	九五二〇	九四四〇	四六五一〇	
第十四年度	一六二六〇	二四三九〇	二〇六五〇	五七六〇	二九一〇	一〇三〇	九五五〇	一一一〇	五七六一〇	
第十五年度	一七八九〇	二四六一〇	二二五〇〇	五五二〇	二六七〇	九六〇	九五五〇	一二九五〇	七〇五六〇	
第三期五ヶ年	七四五九〇	二六九五〇	九五四〇	二三一〇	一三九四〇	八〇七〇	四一一〇	四八一三〇		総額一八〇
十五年総計	一五四一六〇	四七五一〇	二〇六六〇	五九四八〇	三三一六〇	三八四七〇	一三一一〇	七〇五六〇		総額一一〇〇

備考

一、戦時特別公債トシテ総額七百三億円ヲ償還ノ目標トナス（本文参照）

一、ローマ数字ハ自然相当年ヲ示ス

一、各年償還公債ノ利子ハ各年末未償還額ニ対シ計算ス

第十表（参考）

物價騰貴率並歳費増加額見込表

（單位百万円）

物價騰貴ヲ見込ミタル場合ノ増加指數

年度＼科目	戰費 物件費	戰費 人件費	戰費 計（平均）	戰費以外ノ一般費 物件費	戰費以外ノ一般費 人件費	戰費以外ノ一般費 計（平均）
基準年度	八〇（一〇〇）	二〇（一〇〇）	七〇（一〇〇）	二〇（一〇〇）	一〇〇	
第一年	九八（一二〇）	二〇（一〇〇）	八四（一二〇）	三〇（一〇〇）	一一四	
第二年	一一五（一四四）	二四（一二〇）	一三九（一四四）	三六（一二〇）	一三七	
第三年	一五〇（一八七）	二四（一二〇）	一七四	一三一（一八七）	三六（一二〇）	一六七
第四年	一九四（二四三）	二九（一四四）	二二三	一七〇（二四三）	四三（一四四）	二一三
第五年	二五三（三一六）	二九（一四四）	二八二	二二一（三一六）	四三（一四四）	二六四
五ヶ年間（平均）	一六二（二〇三）	二五（一二六）	一八七	一四一（二〇二）	三八（一二六）	一七九

一、戰費以外ノ一般費中ニハ國防費ヲ含ム

物價騰貴ヲ見込ミタル場合ノ歳出増加額（但公債費ヲ除ク）

年度＼科目	戰費 物件費	戰費 人件費	戰費 其他一般費	戰費 計	戰費 其他一般費	戰費 計	差引増加額
	物價騰貴ヲ見込ミタル場合				原案（物價高ヲ見込ザル場合）		
基準年度	二、五六一	二、四一六	四、九七七	六、五六一	二、四六五	五、〇二六	—
第一年	一三、二二四	三、六五一	一六、八七五	一六、四〇〇（一三、四〇〇）	三、二〇三	一四、六〇三	二、二七二
第二年	二五、九九三	六、二三七	三二、二三〇	一八、七〇〇（二一、六〇〇）	四、五五三	二三、二五三	八、九七七
第三年	三六、七一四	八、二一六	四四、九三〇	二一、一〇〇（二四、三〇〇）	四、九二〇	二六、〇二〇	一八、九一〇
第四年	三〇、三二八	八、五九〇	三八、九一八	一三、六〇〇（一五、一〇〇）	四、〇三三	一七、六三三	二一、二八五
第五年	一〇、四一〇	一〇、一一二	一一、五二二	五〇〇	三、八四五	四、三四五	七、一七七
五ヶ年間計	一〇七、六六九	三六、八〇六	一四四、四七二	六五、三〇〇（七三、九〇〇）	二〇、五五四	八五、八五四	五八、六二一

一、公債費ハ物価トハ直接ノ関係ナキヲ以テ本欄ハ特ニ之ヲ除外ス

一、戰費中ニハ一般國防費ノ一部ヲ含ムヲ以テ之ヲ除外ス

物価騰貴ヲ見込ミタル場合ノ租税及税外収入増加額トノ比較

年度＼科目	物価騰貴ノ全額ヲ見込ム場合（A） 収入増加額	歳出増加額	差引過不足	物価騰貴ノ半額ヲ見込ム場合（B） 収入増加額	歳出増加額	差引過不足
基準年度	—	—	—	—	—	—
第一年	五二五	二、二七二	△一七四七	二六二	二、二七二	△二〇一〇
第二年	一、五四一	八、九七七	△七、四三六	七七一	八、九七七	△八、二〇六
第三年	三、八七四	一八、九一〇	△一五、〇三六	一、九一四	一八、九一〇	△一六、九九六
第四年	八、一六五	二一、二八五	△一三、一二〇	四、一一一	二一、二八五	△一七、一七四
第五年	一三、七〇九	七、一七七	六、五三二	六、八五四	七、一七七	△三二三
五ヶ年間計	二七、八一四	五八、六二一	△三〇、八〇七	一三、九一二	五八、六二一	△四四、七〇九

一、本欄差引過不足額ノ不足分ハ公債ノ増発ニ依ッテ支弁スルコトヲ要スベキ分ナリ

一、(A)ノ場合三〇八億円

(B)ノ場合四四七億円

[illegible]